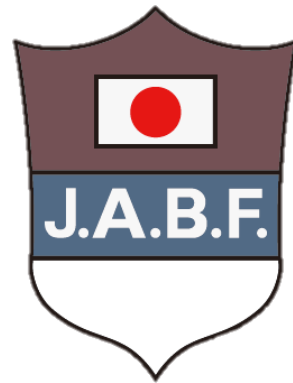


新型コロナウイルス感染症拡大防止等に関する基本方針
大会開催における安全対策／実施計画



一般社団法人 日本ボクシング連盟

目次

1. 全般的な事項
2. 会場準備・運営に関する対策
3. 参加受付時、健診・計量時の対応
4. 競技会参加者への対応
5. 選手がウォームアップを行う際の留意点
6. 試合を行う際の留意点
7. 参加前後の留意事項・感染者の対応について
8. 大会中止の判断基準
9. その他

1. 全般的な事項

- 大会参加者は全員、大会前2週間 から スポーツエントリーチェック日までの健康チェックシート※1 を作成
- 大会来場初日に参加承諾書 ※3（参加者全員）を提出
- オンライン（日本連盟HP・LINE オープンチャット）を使用した情報共有の整備（会議情報・変更情報・山型対戦表・結果等）
- 参加者は各自でマスクやタオルを十分に準備
- 行動記録書の作成（感染が確認された場合に提出）※7

2. 会場準備・運営に関する対策

- 大会会場内に医師を配置
- マスク着用・ソーシャルディスタンス指示イラストの掲示
- 会場内への 消毒ポンプ設置・手洗い30秒を呼びかけるイラストを手洗い場等に張付・ポンプ式石鹸を設置する
- 会場内における一方通行の導入
- 一般用のゴミ箱の設置は行わずに各自で持ち帰りを原則とする。競技運営上のゴミを指定場所に、きつく結んで廃棄
- 場内に対戦表・山型等人が密集する可能性のある掲示物は掲示しない（対戦表・山型等は日連HP・LINE オープンチャットを通じて配信）
- 観覧席・会議席・待機席は約2メートル間隔（最低1m）で椅子を配置

- 空調の利用や窓の開放により換気を行う。また、大型扇風機等を活用して会場内の換気効率を高める。
- 開会式・閉会式・監督会議など、必要最小限での人数で、密を避けたレイアウト設定のもと行う
- インテグリティ研修をオンラインで行う、密を避けたレイアウト設定のもと行う等の工夫をする

3. 当日参加受付時、健診・計量時の対応

- 健診・計量セッション制導入（時刻表の事前通知）
- 各種提出用紙の提出・検温受付後の目印を作成（簡易リストバンド ※5 、ID カードにシール）
- 健診・計量のディスタンスの確保（検温・血圧脈拍測定等の長机で測定者同士との間隔をあける・
ドクター診察時ドクターと書記の間にアクリルスタンド または透明ビニールカーテンの設置）
- ドクター診察時、ドクターはマスク、ビニール手袋を着用する。
- 非接触型の体温計の使用・口腔内の診察省略

4. 競技会参加者への対応

- 選手、引率、役員、競技会場を訪れる関係者に、十分なマスクやタオルの準備を指示
- 入場者の受付での全員検温（サーモカメラ、非接触型体温計）、手指消毒の徹底
- 出場選手は参加承諾書※3 を各団体の代表者に提出し、代表者は参加初日に全員分の参加承諾書を運営本部に提出する。

- 各団体の代表者は全員分の大会前2週間～競技期間中の健康チェックシートを最低1ヶ月は保管すること。
- 競技中に大きな声での会話、応援等の自粛、発声以外拍手等での応援の推奨

5. 選手がウォームアップを行う際の留意点

- ウォームアップ場の入場制限（入場受付・引率人数の制限）
- ウォームアップ場内ではソーシャルディスタンスを意識したウォームアップを心がける（対人練習の禁止の推奨）

6. 試合を行う際の留意点

- アップ会場入退場、競技間セッション制導入（進行状況をオンラインで通知）
- 競技中の競技者以外は全員マスクを着用
- タイムキーパー・ゴングオペレーター・アナウンス席等の長机で、担当者間にアクリルスタンドを設置する。
- リング各コーナー下にうがい用水は置かない。
- 水を飲むことは可能だが、感染対策上、うがい廃液処理が困難なため、うがいを禁止とする。

※口腔内の出血や歯牙の損傷が疑われる場合・マウスピースが床に落ちた場合等、特別な事情の場合は開催地が準備したバケツを貸し出す。

セカンドは責任をもって指定場所で廃水・洗浄・消毒を行い返却するようにする。

- 競技インターバル中にセカンドがタオルで送風することの禁止

- 競技終了後、対戦選手とセカンドの握手は自粛し距離を確保した挨拶をする。
- グローブ・ヘッドガードなど選手が共有する用具は一試合ごとに消毒
- 各グローブ・ヘッドガードをどの選手が使用したか、使用記録を残す。
- セカンドは競技中、ビニール手袋を着用する。手袋の使用は一試合ごととし、ビニール袋に入れて密閉して廃棄する。
- 試合またはセッションごとにコーナーポスト・ロープなど消毒
- アナウンスマイク・ストップウォッチ・ゴング機材 担当者交代ごとの消毒

7. 参加前後の留意事項・感染者の対応について

1) 提出書類の保管について

- ①新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した場合に備え、実行委員会は大会参加者が提出した書類を1ヶ月間保管しておく。
- ②大会参加者が大会終了後14日間以内に新型コロナウイルス感染症に感染した場合、実行委員会は保管している参加承諾書※情報提供を関係機関に対して行う。

2) 大会参加について

①出場チーム等の参加判断基準

- ・ チームとは、出場登録選手、監督、コーチおよび引率者だけでなく、活動や移動行程等を同一とする出場登録選手以外の練習を共にする者およびチーム関係者（トレーナー、運転手等）も含む。

※同一団体であっても活動や移動行動や練習等を同一にせず、試合選手の試合直前のアップとセカンド業務のみに係る場合はマスクや消毒の感染症対策を行っている場合はチームとして扱わない。

但し、選手が同一大会期間中の試合後、感染者・濃厚接触者・感染疑い者となった場合、その選手のウォーミングアップ時のミット打ち、競技中リング上でセカンドを行った者は以後の同一大会参加を認めない。また、ウォーミングアップ時のミット打ちやリング上でセカンドをした者が感染者・濃厚接触者・感染疑い者となった場合、大会期間中にミット打ちやリング上でセカンドを受けた選手は以後の同一大会参加を認めない。

- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前2週間以内の期間に、チーム内で感染者・濃厚接触者が発生した場合、感染者・濃厚接触者は参加を認めない。感染者・濃厚接触者以外のチーム全員の体調不良がない場合、チーム全員がPCR等検査で陰性判定された場合のみチームは出場可能とする。
- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前3日以内の期間に、チーム内で感染疑い者（体調不良者）が発生した場合には、感染疑い者（体調不良者）は参加を認めない。感染疑い者（体調不良者）以外のチーム全員の体調不良がない場合、チーム全員がPCR等検査を行い、陰性判定された場合のみチームは出場可能とする。また、チーム内で感染疑い者（体調不良者）が発生した時、既に大会参加前（開催地への移動開始日を起算とする）96時間以内のPCR検査結果受取後、もしくは検査結果待ちであるならば、再度検査を必要とする。
- ・大会参加日の4日前から2週間以内の期間に、チーム内で感染疑い者（体調不良者）が発生した場合には、チーム全員の体調不良が解消された後、チーム全員がPCR等検査で陰性判定された場合のみチームは出場可能とする。
- ・大会参加日から15日前以前の期間において、チーム内で感染者、濃厚接触者または感染疑い者が発生した場合には、チーム全員の体調不良が解消された後、チームは出場可能とする。
- ・接触者（要観察者）については、健康チェックシート ※1のチェック項目に該当しなければ特に制限しない。
- ・緊急事態宣言地域からの参加の可否については、当該地域の都道府県担当部局または出場選手所属長の判断に従うものとするが、会場地自治体に移動する者は原則として出場登録選手、監督、コーチおよび引率者のみとする。
- ・チーム内に1名以上の新型コロナウイルス感染症対策責任者（監督やコーチ等でも可）を置き、参加申込の際に実行委員会に報告する。新型コロナウイルス感染症対策責任者は、実行委員会、保健所等との連絡調整を担うとともに、チーム内での感染者対応や感染防止対策徹底の役割を担うこと。
- ・上記の通り、判断基準を定めるが、医療機関及び保健所等からの指示がある場合には、それを優先するものとする。

②大会関係者の参加可否判断基準

- ・大会参加者とは、役員、補助員、報道機関、招待者、視察者、競技団体関係者、スポンサー、開催自治体関係者、出店者、観客等、来場する全ての者をいう。
- ・大会期間中の感染者、濃厚接触者、感染疑い者は参加を認めない。
- ・大会参加日および大会参加日から参加2週間前までの期間の感染者または濃厚接触者は参加を認めない。
- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前3日以内の期間における感染疑い者は参加を認めない。
- ・大会参加の4日前から大会参加2週間前以内の期間における感染疑い者は、体調不良解消後PCR等検査により陰性と判定された場合、参加可能とする。
- ・大会参加日から15日前以前の期間における感染者、濃厚接触者または感染疑い者は、体調不良解消後参加可能とする。
- ・接触者（要観察者）については、健康チェックシート ※1のチェック項目に該当しなければ特に制限しない。

③感染者、濃厚接触者、感染疑い者、接触者(要観察者)の基準

ア. 感染者 PCR 検査 (LAMP 法、TMA 法も含む。※以下同じ)、抗原定量検査または抗原定性検査で陽性と判定された者

イ. 濃厚接触者 所轄保健所の判断による。

ウ. 感染疑い者

・発熱 (37.5°C以上) や風邪症状 (咳、のどの痛み)、だるさや息苦しさ、味覚や嗅覚の異常など健康チェックシートのチェック項目該当者。

ただし、健康チェックシート ※1 のチェック項目該当者であっても、次の①に該当する者は除く

①全チェック項目のうち「同居家族や身近な知人で感染が疑われる方」のみの該当者であり、かつ感染が疑われる同居家族や身近な知人が以下の a~c の場合

a PCR 検査又は抗原定量検査 (以下「PCR 等検査」という。) により陰性と判定された場合

b 医師や保健所等により感染者である可能性が低いと診断された場合

c 症状発症 (発症日は含めない) の 2 日前から 10 日後までの期間に感染が疑われる同居家族や身近な知人と接触していない場合

・感染疑い者の発生日とは、健康チェックシートのチェック項目に該当があった日 (複数日の場合は大会に最も近い日)

3) 感染症発症者、濃厚接触者または感染疑い者となった場合の対応

・全ての大会参加者 (出場チームおよび大会関係者を言う、以下同じ) は、大会期間中および大会参加前 2 週間以内から大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、開催地実行委員会に対して速やかに報告し、指示に従うこと。

・全ての大会参加者は、医療機関や隔離施設、宿泊施設、自宅までの移動や輸送は各自の責任で行うこと。特に感染者や濃厚接触者となった場合には公共交通機関やタクシーは利用できないため、移動手段を事前に想定しておくこと。

ア. 出場チーム

チームが出場を認められない場合や一部選手の検査、療養または帰宅が必要となった場合等の手段について、チーム関係者、所属団体、保護者等と事前に検討しておくこと。

イ. 大会関係者

参加が認められない場合や大会途中で検査、療養または帰宅が必要となった場合等の移動手段について、各チーム、所属団体、保護者、その他関係者と事前に検討しておくこと。

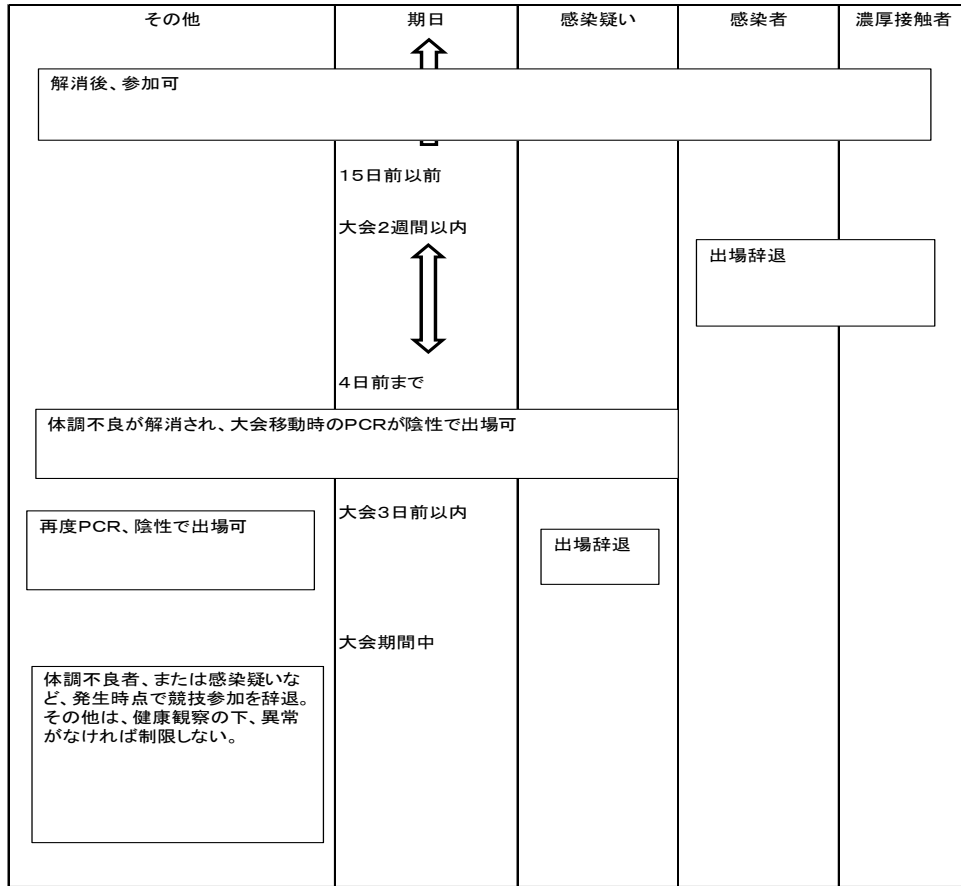
・新型コロナウイルス感染症対策責任者は、参加する前に保護者やチーム関係者に対し、感染者等が発生した場合には、開催県における付添いや開催都道府県までの迎えが必要となる場合があることを周知徹底しておくこと。

4) 大会中止や出場禁止措置等に伴う経費負担

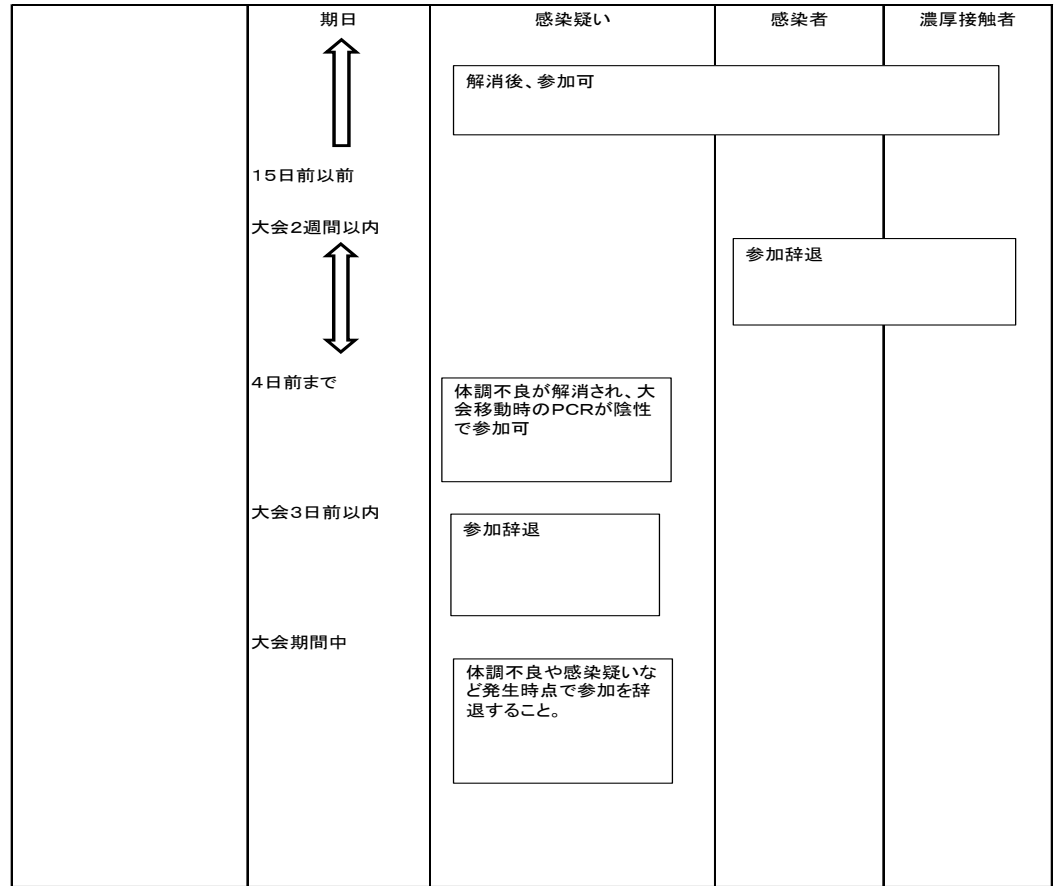
・本基準に基づき大会中止または出場禁止となることに伴い、出場チーム (選手、監督ほか関係者) や保護者、その他関係者が支払う PCR 検査料、治療費、宿舍キャンセル料、交通費などの経費については、原則として出場チームが負担するものとし、開催地実行委員会は負担しない。

コロナ感染に係る大会参加判断基準フロー図

チーム



参加者



・チームとは、出場登録選手、監督、コーチおよび引率者だけでなく、活動や移動行程等を同一とする出場登録選手以外の練習を共にする者およびチーム関係者(トレーナー、運転手等)も含む。

・感染疑い者とは発熱(37.5℃以上)や風邪症状(咳、のどの痛み)、だるさや息苦しさ、味覚や嗅覚の異常など健康チェックシートのチェック項目該当者

8. 大会中止の判断基準

- 1) 参加を認めない選手や欠場者、予選未実施等により出場選手予定数の33%を超える欠員が出た場合
- 2) 役員補助員等の欠員により大会運営に支障をきたす場合
- 3) 競技会場や練習会場が利用できなくなり大会運営に支障をきたす場合

9. その他

開催地住民に対し遠方訪問者の影響によるコロナ感染、コロナ感染に係る不安な思いをさせる行為は避けなければならない。

そのため、訪問者として明確にわかるようなあからさまな行為は住民の不安につながる行為になるため自粛する必要がある、これらを踏まえ以下を推奨する

- ・関係者は所属名の入った服装での長距離移動、食事 及び 買い物等を控えることの推奨
- ・外食する際、訪問者とわかるような発言や飛沫感染を拡大させるような大きな言動を控えることの推奨

参考資料

1. 日本スポーツ協会 スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
2. 令和3年度全国高等学校総合体育大会実施時における新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針
3. 一般社団法人 日本ボクシング連盟 感染症と共存する新しい生活様式におけるボクシング競技の活動再開に関するガイドライン
4. 岩手県・群馬県・岡山県 高体連ボクシング専門部 競技会再開に関するガイドライン
5. 岩手県立盛岡南高等学校 ボクシング部顧問 教諭 小池彰 コロナ感染に係る大会参加判断基準フロー図